

会議の名称	令和6年度 第2回静岡市子ども読書活動推進会議	
開催期間	令和7年1月28日（火）13時30分から15時30分	
場 所	清水庁舎 312 会議室	
出席者	（静岡市子ども読書活動推進会議委員）	
	小南 陽亮	
	向山 守	
	甲斐 奈弓	
	小山 智子	
	馬淵 妙子	
	清 俊之	
	小林 由紀	
	柴田 雅子	
	栗田 柄子	
	（静岡市子ども読書活動推進委員会）	
	教育局次長	本野 雄一郎
	参与兼中央図書館長	望月 一竹
	（静岡市子ども読書活動推進委員会作業部会）	
	男女共同参画・人権政策課 主査	榎本 有希
	生涯学習推進課 課長	島田 祐介
	生涯学習推進課 主事	福田 都萌
	子ども未来課 主査	杉山 欣和
	幼保支援課 主任主事	西澤 成美
	こども園課 課長	國分 英夫
	こども園課 田町こども園園長	興津 友紀
	教育総務課 管理主事	田中 一弘
	教育施設課 主任主事	村上 健人

	教育センター 学校図書館支援室長 教育センター 指導主事	新井 義広 石上 恵
	(事務局) 中央図書館 サービス係長 中央図書館 主査 中央図書館 主事	照内 美穂 中村 都美 関寄 綾乃
欠席者	(静岡市子ども読書活動推進会議委員) 杉山 奈歩 (静岡市子ども読書活動推進委員会) 教育センター所長 男女共同参画・人権政策課 課長 文化振興課 課長 子ども未来課 課長 幼保支援課 課長 教育総務課 課長 教育施設課 課長 (静岡市子ども読書活動推進委員会作業部会) 文化振興課 主任主事	榎本 義男 岡本 恵 望月 雅乃 西島 弘道 松浦 里美 飯田 浩史 大瀧 雅博 鈴木 千優
傍聴者	なし	
議題	(1) 令和6年度「第4次静岡市子ども読書活動推進計画」実績報告(各課取組状況) (2) 令和7年度「第4次静岡市子ども読書活動推進計画」取組について	
会議記録	別紙のとおり	

(会議進行記録)

1 開会

2 教育局次長挨拶

4 議題

(1) 令和6年度「第4次静岡市子ども読書活動推進計画」実績報告（各課取組状況）

(小南会長)

議題1について、関係各課より主だった点の説明をお願いします。

(中央図書館 中村)

中央図書館の取組からご説明申し上げます。資料2をご覧ください。

中央図書館では32の取組をしており、達成度はどの事業につきましても、順調に進んでいます。たくさんありますので、この中から皆さんのご意見を頂戴したい点に絞ってお話いたします。

整理番号16番「録音図書やバリアフリー絵本等の整備・充実」をご覧ください。こちらにつきまして、図書館でも非常に拡充しておりますが、さらなる環境整備のため、この場で委員の皆様へ、学校やこども園でそれらの資料が使われている様子を教えていただきたいです。

次に整理番号19番「電子図書館の設置」をご覧ください。9月に図書館から、市内の小・中学校の児童生徒・職員へ電子図書館が利用できる学校用IDを配布しました。多くの学校で朝や授業の時間にログインされている様子が数値的に出てきておりますが、実際に子どもたちが使っている様子を、本日小中学校の先生方もいらっしゃいますので、教えていただきたいです。

次に整理番号43番「移動図書館特別訪問」をご覧ください。前回の会議で皆さんのご意見の中に、こども園にも図書館を利用する機会がほしいというご意見がありました。中央図書館で持っております移動図書館の特別訪問という形で、遠方の園に訪問をしております。これから1月、2月にかけて小島、興津、庵原と図書館から遠い園に訪問する予定であります。

それから、整理番号52番「団体貸出し」をご覧ください。11月末時点で、市立図書館全館合わせて11,247冊の貸出しがありました。今年度あと4ヶ月で、これよりもさらに多く

なっていくと思われませんが、登録している団体の数が、なかなか増えません。たくさんこども園がある中で、13園しか登録がありません。

理由として、図書館が遠いからか、物流の問題か、周知されていないからかなど、教えていただけるとありがたいです。

(教育センター 指導主事 石上)

学校図書館支援室は、9つの取組を実施しました。そのうち8つの取組の達成度をAとしております。中でも、力を入れた3つの取組と、達成度をBとした1つについて説明いたします。

まず力を入れた取組の1つ目、整理番号10番「読書推進活動の実施」をご覧ください。こちら達成度をAとしました。市内の多くの小・中学校で、図書専門委員会の子どもたちが中心となって、各種イベントの企画や運営を行っています。各校で非常に工夫して自校にあった読書イベントが行われております。また、保護者や地域の方が読書ボランティアとして、読み聞かせなどに定期的に参加されている学校も非常に多くあり、子どもたちもその時間を楽しみにしているという声を聞きます。

2つ目は、整理番号の29番「ICTや1人1台端末を活用した読書活動の推進」をご覧ください。こちらAとしました。

子どもたちが学習用端末を使って、おすすめの本を紹介しあったり、紙とデジタルの資料を使い分けて調べ学習をしたりするなど、ICTと本のベストミックスな授業実践が行われています。

今年度9月より市立図書館の電子図書館で、電子書籍を児童用の端末でも閲覧できるようになったため、自分に合った使い方を選んで読書ができるようになってきています。

3つ目は、整理番号30番「多様な子どもの特性に応じた取組」をご覧ください。こちらAといたしました。資料1の数値目標の7つ目にもありますように、多様な子どもの特性に応じた書籍を用意している学校が増えてきています。この後数値目標の報告のところで詳しく説明させていただきます。

課題として整理番号57番「学習活動における図書館の利活用」をご覧ください。こちらは達成度をBとしました。市立図書館の団体貸出しや学校協力貸出しは、特に小学校で多く利用されています。また、市立図書館から児童生徒用IDも配布され、電子図書館が利用できるようになりましたが、こちら3点について、学校ごとに利用に差があるのが現状です。

今後も具体的な活用例などを、学校司書だけでなく、先生方にも知らせて利用を促していく必要があると考えました。

(生涯学習推進課 島田)

生涯学習推進課の取組として、整理番号 8 番「生涯学習施設での読み聞かせ講座等の開催」をご覧ください。

生涯学習事業の一環で、指定管理者実施事業として、葵・駿河区の 11 施設、清水区の 21 施設の、計 32 施設の生涯学習センターおよび生涯学習交流館のうち、9 施設で読み聞かせ事業を実施しております。

令和 5 年度でございますが、17 施設で 26 事業 136 回の講座を実施し、延べ 1,940 人の参加をいただきました。

令和 6 年度実施につきましては、11 月末現在での実績で、15 施設で 19 事業、76 回の講座を実施し、延べ 1,312 人の参加をいただいております。

読み聞かせ講座については、各施設で読み聞かせボランティアとして活動されているサークルや団体があり、その方々との共催という形で実施しております。

各講座については、季節のイベントとして単発で実施されるものと、1 年を通して 1 ヶ月に 1 回程度の頻度で開催されるおはなし会がございます。おはなし会は、読み聞かせだけでなく、パネルシアターや大型絵本や手遊びなどを交えて、乳幼児から小学生まで幅広く興味を持ってもらえるよう工夫しながら開催しています。

現在集計しているものは 11 月末時点での実績となりますが、まだ年度末に、多くの講座が実施される予定で、開催時、事業数や回数については、昨年度と同様の実績となる見込みでございます。

また、記載の※で記載がありますとおり、社会教育事業として、家庭教育学級という、親子や保護者を対象とした、読み聞かせに関する事業を実施しております。こちらは連続プログラムのため、読み聞かせに関する講座回数には計上されていませんが、親子の読み聞かせについて、話し方や、子どもに聞いてもらう工夫についての講座や、ボランティアの読み聞かせを実際に親子で聞く、といった内容で実施しております。

(子ども未来課 杉山)

子ども未来課の取組として、整理番号 3 番「子育て支援施設でのおはなし会」をご覧ください。

内容として、子育て支援センターやあそび・子育ておしゃべりサロンにおいて、保育士などによるおはなし会や読み聞かせを開催しております。

実績として、実施場所が多く、実施時期が不定期で日常的に行っているため、開催回数等の把握が困難となっております。例年通り実施しておりますので、達成度は A とさせていただいております。

次に、整理番号 9 番の「児童館における読み聞かせの推進」をご覧ください。児童館では、子どもの読書への関心を高めるとともに、保護者に対しても読書への関心を持ってもらうため、読み聞かせやおはなし会を定期的に開催しております。

実績としましては、12 月末時点で、市内の 13 館で 283 回、参加者 4,698 人となっております。こちらも順調にいけば、令和 5 年度と同程度の実績に達するため、達成度を A とさせていただいております。

(男女共同参画・人権政策課 榎本)

男女共同参画・人権政策課の取組として、整理番号 44 番「男女共同参画の視点を持った絵本等の紹介」をご覧ください。幼少期からジェンダー平等の視点を育むため、男女共同参画の視点を持った絵本のリストを作成し、各こども園に配布、説明して、選書の参考にしていただくものです。

こちらは見込みとなりますが、令和 7 年 3 月にリストを作成・配布する予定ですので、達成度を A とさせていただいております。

(教育施設課 村上)

教育施設課・建設整備係の取組として、整理番号 27 番「校舎改築・増築、大規模改修事業」をご覧ください。実績として、現在は、蒲原小中一貫校の校舎建設の工事に着手しており、令和 8 年 2 月完成を予定しております。また、藁科地域小中一貫校の校舎設計業務にも着手しており、こちらは令和 8 年 3 月完了予定となっております。

次に、教育施設課・経理係の取組として、整理番号 28 番「学校図書館の充実」をご覧ください。各学校へ図書購入費を配当しております。実績として、令和 6 年 12 月 11 日時点で、小学校の図書購入費は、31,145,043 円で、配当した予算の 92.3%が既に支出済みとなっております。中学校は 22,257,108 円で、こちらは 83.9%が既に支出済みとなっております。

学校に置くべき図書の冊数である、図書標準数量の保有率につきましては、学級数の増加によって令和 6 年度 4 月の時点では、100%を少し下回ってしまった学校がありましたが、

今年度購入したことで、100%を達成しております。

ただし、南部小学校が8冊、清水高部小学校が41冊不足しており、現在はその2校のみ100%を下回っております。今年度中に購入して100%を達成する見込みです。

(教育総務課 田中)

教育総務課は、静岡市立高校と、清水桜ヶ丘高校の2校を所管しておりますので、その2校に関しての取組ということで、整理番号35、36、37、38の4項目を挙げさせていただいております。

整理番号35、36、38番につきましては、司書教諭と、高校の中にある専門委員会とで、上手に連携しながら様々な取組を行っていただいておりますので、Aをつけております。

どちらの2校でも、「総合的な探求の時間」に絡めて、調べたことを人に伝えることの導入部分として、ビブリオバトルや、ビブリオトークを実施していただいております。

高校生の中で、本と接する時間を増やすための取組をしてはおりますが、入学や進路を決める時期が近づく中で、読む内容が偏ってしまっており、多感な時期に読んでもらいたい本が読まれていない現状ですので、それらに接する時間を取る等、もう少し踏み込んだ取組をしていく必要があると考えております。

(こども園課 田町こども園園長 興津)

こども園課としては、8項目すべて、Aをつけさせていただいております。

園の子どもたちは、絵本や紙芝居に触れない日はないほど、日々の生活の中でたくさんのおはなしを聞いており、本を身近に感じています。

その中でも、整理番号5番の「保護者やボランティアによるおはなし会の実施」につきまして、地域のボランティアにおはなし会をしていただくことで、いつもと雰囲気が変わったり、いつもと違う本を紹介してもらったりという楽しみがあるので、地域でおはなし会をしていただける方が眠っていないか探したり、紹介していただいたりしています。

また、地域の方々との繋がりが無い園の場合では、園内で、担任ではない別のクラスの先生がおはなし会をするなど、園児がおはなし会を楽しめるように工夫しております。

静岡市の移動図書館も利用させていただいておりますが、課題を感じています。本を借りるには図書館カードが必要となると、借りられる子と借りられない子が出てきてしまい、不公平になってしまうので、園で借りられるような、違ったアプローチができるような図書館があると嬉しいです。

それから、こども園の中だけでは揃えきれない本もありますので、園にない本やおはなしに出会えるような図書館が、子どもたちがお散歩で行って、自分で選べるような園の近所にあると嬉しいです。

(幼保支援課 西澤)

前回の会議でもお伝えさせていただきましたが、資料2にて、こども園課と幼保支援課が連名になっている取組は、静岡市内の公立の認定こども園の実績が記載されています。

当課が所管している私立の保育施設については、各園の方針や特色に合わせて、設置者である各事業者が保育計画を作成していて、その中に公立のこども園と同様の読書活動も含まれていると考えています。

ただ具体的な保育内容や、その中でも読書活動の詳細については、行政が指導監督するという立場ではないので、監査の調査事項に含まれていないということもあり、私立の保育施設の読書活動の詳細については、特に調査等は行っておりません。

私立の保育施設の子どもたちも、公立園と同様の取組を行っていると考えています。

(小南会長)

それでは委員の皆様、ご意見ご質問ありましたらよろしくお願いします。

それから、このことを少し教えていただけたら、という課題等もいくつかありましたので、そういった点も含めて、何かアドバイス等ぜひ教えていただければと思います。

(甲斐委員)

多方面から本に触れる機会を子どもたちに作ったり、環境を整えたり、とても踏み込んで、取り組んでくださっていると感じました。

子どもたちの読書離れについて、本が好きな子どもは、自らこども園、保育園や児童館、学校の図書室、公立図書館に行って、本を借りると思います。

ですが、どれだけ環境を整えても、本に触れる楽しみを知らない子どもたちは、本を手にとろうとしないと思います。

10年ほど前、私の娘たちが小学生のときには、授業の時間を使って、学年やクラス単位で学校のボランティア等による読み聞かせを1時間聞く、という時間がありました。

ですが、授業のコマ数が足りないということで、授業でおはなし会を開催することがなくなり、昼休みに開催するようになると、参加者は少なくなりました。

本が嫌いな子も、1時間座っておはなしを聞かされたら、おはなしには展開があつて、こ

んな面白い最後になる、ということが、回数を重ねるうちにわかると思うので、無理やり本に触れる機会を小学生になっても作った方がいいのではないかと考えています。

それは授業の関係で難しいとは思いますが、そういった経験によって、本は楽しいものだという事を感じさせてあげられればよいのではないかと考えていました。

それから、児童館ごとに蔵書が異なるので、もし可能でしたら、子どもたちが児童館のイベントやおはなし会を巡るスタンプラリーのようなものがあると、本や環境、読み聞かせをするボランティアの方々も異なるので、面白いのではないかと考えていました。

それから、バリアフリー図書について、私は小学校、中学校で読み聞かせをしておりすが、当初こういった図書が小中学校にあることを知りませんでした。

特別支援学級で読み聞かせを担当するときは、年齢に幅がある場合があるので、本の選書が難しかったので、今日、市立図書館や学校図書館にはバリアフリー図書があることを知って、ここからも選書ができると感じました。

ですが、バリアフリー図書があることを知らない読み聞かせボランティアたちは多いと思います。

(小南会長)

ありがとうございました。大変貴重な意見だと思います。

私も全く同感で、本が元から嫌い、という子どもはあまりないと思いますので、もちろん子どもが主体的に読書に取り組んで、本が好きになることが理想ではありますが、現状を見ると、多少強制される部分があっても、おはなしの面白さを知るきっかけを作ってあげることが非常に大切だと感じました。

これに関してご意見はありますか。

(教育センター 指導主事 石上)

特に小学校にて、現在も授業の時間を読書の時間として位置づけている学校は多くあります。ただ、その時間、子どもたちを全員連れて、図書館に行くかは、担任の先生に任されているところが多いです。

低学年3、4年生ぐらいまでは、日常的に、クラス全員で図書館で本を読むことをしている印象です。

やはり、学校としては、強制的に時間を設けることは、なかなか難しいので、1人1人をよく見て知っている担任の先生や学校司書が、それぞれの興味関心にあった本を紹介するこ

と、それから、周りにいる大人や友達が本を読む環境にあるとやはり自然と本を読むと思いますので、子どもたちのそばにいつも本や資料があるといった環境を整えていきたいと思います。

(教育センター 学校図書館支援室長 新井)

低学年は国語の時間が比較的多いので、クラス単位で図書館へ行って、本を借りて読む時間が取れるのですが、高学年になると、国語の時間が減ってきますので、そのような時間を取るのが難しくなってきます。これは学習指導要領で国語の時間が決まっているので、仕方がない部分ではありますが、学校ではとても工夫をして、できるだけ、子どもたちに読書の時間を増やそうという取組はしております。

P T Aの方も、大変熱心に協力していただいて、読み聞かせの機会をとっていただいている学校が大変多くあります。

それから、やはり低学年の頃はとても本が好きだった子も、高学年になるにつれて、字を読むのが嫌になる子が増えていく印象です。それは、本を読むことの楽しさから長く離れていってしまうことになりますので、高学年になっても楽しく読めるような本を学校に揃えていくことが必要だと思います。

中学1年生が中学の学校図書館に入ると、急に難しい本がたくさん並んでいて、本を読むのが嫌になってしまう子もいるようですので、小学校と中学校が協力しながら、中学でも中学1年生が読みやすいような本を揃えていくことが必要だと感じています。

(馬淵委員)

私もボランティアで学校へ読み聞かせに行かせていただいておりますが、どの学年に入っても、子どもたちはみんな楽しく本を聞いてくれています。本が嫌いだと思っていそうな子はほとんどいません。

本を読む時間が減っていて、自分の子どももゲームをする時間の方が増えてしまっていますが、子どもたちはみな本が好きなのだと思います。

今の子どもたちは、昔話に触れることが少なくなっていたり、昔ながらの風景がわからない人が増えていて、昔話を国語で教える時には、先生はまず、その風景から教えなければ、おはなしの楽しさを教えることができません。

国語の教科書で使う教材で、絵本から引用しているものは、挿絵が載っています。絵本で挿絵が教科書より多いものを、図書館に置いていただいて、それを読みきかせをすると、字

だけでは言葉の意味がわからなくても、風景が頭の中に入っておはなしを楽しむことができますと思います。

そうすれば、国語の時間を減らさなくても、より子どもがおはなしを楽しめて、国語の教材に親しめると思いました。

それから、字を読むのが大変な幼い子どもが増えていると感じています。字が入れ替わってしまって読めなかったり、話すときには言葉が出てくるけれど、作文を書くときに、文字で言葉にすることが苦手だったりする子がいる中で、一人一台持っているタブレット端末で、自分の音声を文字化して提出できるようなことができれば、書くことのハードルが下がり、自分を表現する力に繋がっていくと考えていました。

そのような中で、整理番号 16 番の「録音図書やバリアフリー絵本等の整備・充実」を見て、録音図書やさわる絵本などで、表現の仕方を増やしてあげるとは、とても良い取組だと思いました。

(柴田委員)

先ほどのお話の中で、学校で本に触れる時間が減っているということにつきまして、確かに先ほど新井先生の方からもお話があったとおり、授業数が決められているので、十分に取ることは難しいのですが、国語の授業の中では、「平行読書」という形で、教科書で紹介されている教材に関連した本を、紹介している先生はいらっしゃるようで、私も含めて意識するようにしています。

今私が3年生で「三年とうげ」という韓国の民話のようなおはなしを国語の授業で扱っていて、そこから各国の民話に親しむことが狙いとなっていますので、ブックトーク等で、他の国の民話を紹介するようにしております。

丸々一時間読みきかせができなくても、そのような形で、子どもたちが本を手にとってくれる機会を増やしています。

先ほど中央図書館さんからデジタル読書のお話がありましたが、図書室に行かなくても隙間時間に本が読めるという良さや、紙の本とは異なり、一度に全員が同じ本を読める良さがあり、登録されている本の種類についても、子どもたちに人気な本が増えてきていて、大変いいなと思っています。

ちょっとした隙間時間に、「読書をしていいですか」と子どもたちから声があがるので、「デジタル読書も OK ね」と指示を出すと、「紙の本でもいいですか」と言う子も多く、紙の

本が大好きで、どちらかというと自分の持っている紙の本を読みたいという子も多いです。

紙とデジタルの両方のいいところを、子どもたちが選択して、読んでいければと思いますので、電子図書館のコンテンツ数はまだまだこれからかなと思いますけれども、種類が増えていけば、これからより子どもたちが活用できるかなと思いました。

(清委員)

関係各課の皆さんからの実績の報告をいただいて、乳幼児から高校生までを網羅した事業がこれだけ行われていて、達成度として A という評価をつけているという状況が本当に素晴らしいことだと思います。

毎年同じようなことでも、繰り返し根気よく行っている成果が、評価 A に繋がっていると思います。それが、1 人の人間の人間形成に繋がることがベストだと思います。こういった事業が繋がり、積み重なり、成長していくのだということを、周りの大人が共有したいと思っています。

それぞれが事業を粛々と行っていくことも大事ですが、1 年通してではなくても、子ども読書の日のような機会に、すべての事業が一斉に、そういう事業をしていることを、家庭や保護者など外へ発信していくことで、学校も協力できるでしょうし、背中を押すような、もう一步踏み込むようなことに繋がればよいなと感じました。

今委員の皆さんからお話があったように、私が小学校の校長だった時に、朝読書の時間に読み聞かせボランティアさんに来ていただいて、低学年、中学年、高学年と日替わりのように回っていくと、子どもたちの目が自然に読み聞かせの方へ向いていて、頭も動かず、下も向かないので、集中していて、子どもたちが本が好きなことがわかりました。15 分程の時間集中している姿を見て、こういったことを積み重ねていくことが大事だと感じました。

授業の中で図書館に連れて行き、学校司書さんの代わりに貸出手続きをする機会があると、それぞれの子どもの本の選び方がわかり、自分の心がワクワクする本に出会っていく機会が積み重なっていく様子がわかりました。

やることをただやるだけではなく、大本となる市の政策や、目的や狙いをそれぞれが意識するだけでも違うと思います。

電子図書館も、学校によって差があるということでしたが、始まったばかりなので、離れたまま置いて行かれてしまう学校が出てくると思います。先進的に使っている学校の事例を紹介していったり、使い方や具体的にできることを発信していったりすることで、電子図書

館を活用できる学校が増えるのではないかと感じました。

(小南会長)

ありがとうございました。

今の学校教育の中で、自ら課題をみつけて主体的に解決しようとする態度を育成する「探究」が非常に重視されているので、まさにその探求の活動こそ、学校の図書室や図書館を利用するとよいと思います。

現実的にはなかなか図書館まで出かける時間を設けられないとは思いますが、そこは一つ教科ごとの探求活動や、総合の時間での探求活動で、できれば学校の図書室や図書館を利用したり、場合によっては図書館に半日ほどいるといった活動も、可能ならばできれば素晴らしいと思っています。

それでは他に何かご意見ありましたらよろしくお願いします。

(小林委員)

団体貸出のカードのルールがもう少し明確になると、先ほどおっしゃっていたこども園でも、使いやすくなると思います。

おそらく知らない子ども園も多いと思いますので、もう少しアピールが必要だと思いました。

また先日も、中央図書館で支援の子たち向けの本を見せていただいて、本当にたくさんあるなと感じているのですが、支援の子たちを連れて図書館へ行くハードルがとても高いので、もう一工夫何かあればよいなと思っています。

そのため電子図書館は本当にとっても良いなと思っているのですが、こども園でも、ICT化が進んで、タブレットをクラスにいただいているので、園の方にも電子図書館のIDがあると、子どもたちの本に触れるハードルが下がると思いました。

どの園でも毎週1冊ないし2冊は本を借りて、保護者と一緒に、もしくは自分たちで楽しむという活動をしているのですが、なかなかそれが小学校まで継続できない部分がありますので、幼保小の連携という部分からも、小学校の先生たちにぜひこども園に来て、どのような本があるかというところを見ていただければと思いました。

(小南会長)

整理番号52番について、利便性や広報周知を図っていただきたいというお話でしたが、図書館の方から何かご回答ありますでしょうか。

(中央図書館 中村)

団体貸出しについては、図書館ウェブサイトにも、利用案内等々掲載していますが、ご存知ないということなので、違う周知の方法を考えたいと思います。

こども園への ID 配布につきましては、申し訳ありませんが、この場でご回答ができかねます。

こども園と小学校との連携や、小学校の先生がこども園の方に見に来ていただければというお話がありましたが、支援室さんの方で、お話しいただける部分があるかなと思います。

団体貸出しについて、物流についてはどうでしょうか。こども園の先生方が図書館に借りにみえるのは難しいでしょうか。

(小林委員)

私どもは歩いて行ける距離に美和分館があるので、年に何回か借りに行きます。ですが、そうでない園もたくさんあります。場所の問題ですので仕方がない部分はありますが、移動図書館も借りるには予約をしなければならなくて、園と移動図書館の日程調整が難しいです。借りる場所について、もう少し歩いて行けるような距離にあるとよいと思っております。

(中央図書館 中村)

団体登録されている団体さんは、お子さんたちを連れてくるというよりは、図書の担当の方がお見えになって、子どもたちに合いそうな本を借りていかれる、という形です。

(小林委員)

どちらかというと、そうではなくて、子どもを連れて行って、本に触れさせたいです。子どもに本を選んだり、手に取ったり、また自分で選んだ本を読んだりといった楽しさを伝えていきたいと思っています。

(教育センター 石上)

幼小での連携について少しお話しさせてください。小学校の特に低学年の先生が、幼稚園やこども園で子どもがどのような環境で生活してきたのかを知ることは、本当に大切なことだと感じています。

とくに、小学校一年生に上がるときのギャップがないようにできるだけ配慮したいので、そういった機会は今後も増やしていきたいと思っています。

逆に、こども園の子どもたちが、学校見学に行って、学校の広い図書館を見学したり、一年生に本を読み聞かせしてもらったりする学校もあると聞きますので、少しずつ、連携をし

たいと思っています。

中学生の家庭科でも、小さな子どもたちが使うおもちゃを作ったり、読み聞かせをしたりする授業があります。その際、中学生たちはどのような本を読んでいいのかわからないということで、司書教諭や学校司書に相談するという事なので、園児たちが本を読む様子を見学に行くのも、面白そうだなと感じました。

(教育センター 学校図書館支援室長 新井)

私が学校の現場の方にいた頃、よくこども園や保育園のお子さんが、お散歩で学校に来てくれることがありました。そのときに図書館にも来てくれればと個人的には思います。

ただ安全面等、クリアしなければならない課題はあると思いますので、どのような利用の仕方ができるのかを相談していただければと思います。

(栗田委員)

中学の前任校では、今の時期に、入学説明会で6年生が中学に来てくれたときに、図書室も見てもらったことがあるので、そんなに難しいことでもないのかなと。お話を聞いていて思いました。

(小山委員)

先ほどの中学生の読み聞かせの授業のお話でもありましたが、子どもが子どもに読み聞かせることはとても良いなと感じています。

子どもの授業参観に行くと、今の子どもたちは Chromebook でスライドを作って、クラスで発表しています。それを読み聞かせや本の紹介に活用していただいて、「私はこの本を選んでこういう表現をするよ」といったことを、学年をまたいで発表する取組があってもいいかなと思います。

今発表があった事業は、大人が子どもに読み聞かせをすることが多いと思うのですが、中学生の家庭科の授業よりもハードルの低いところで、小学校でも、そういった子ども同士の読み聞かせがあってもいいと思いました。

中学生が育児体験をするイベントで、0歳の子どもをつれた保護者として参加した際、ハプニングがある中で、とても生き生きと学んでいらっしやったと感じたので、子どもが子どもに、という取組を加えていただくと、より我が事として、本と接することができると思いました。

家庭では姉が弟に、小さい子にわかるように表現の仕方を考えたり、「これって何？」と

聞かれたときには説明を加えたり、といったことは多いと思いますが、何か学校等の公の場でそういった取組があると、もう少し真剣に考えたり、自分が手に取ったことのない本を提案したりするきっかけになるのかなと、個人的には思いました。

好きなテーマの本ばかりでなく、別のジャンルで新しい発見をする読書や、本を選ぶ楽しみが広がるのではないかと思います。

(清委員)

子どもたちが忙しい、というのは、10 年も前から言われていましたが、そこから変わったことといえば、スマートフォンの登場が強烈だと改めて思っています。

ほぼ皆が持っているような時代になって、家に帰って宿題が終わると、スマホで、友達とやりとりをしたりゲームをやったりという時間が過ぎて、それが楽しく思っているのだと思います。本や読書から離れることが進んでいくのも、そういった流れだと思います。

ですが、今お話しいただいたように、小学校低学年中学年にかけて、本に触れたり読み聞かせしてもらったりということを重ねて、いったん本から離れることはあっても、戻ることができる状況を作るような手を打っていくしかないと思います。

ですので、市立高校さんでされているこういった取組は、とてもいいことだと思います。

学校司書さんたちのリードはとても強いので、いろいろな工夫をして環境整えてくれたり本を紹介してくれたり、放送を流したりしていただいています。

うちの学校も先日昼の放送で、図書委員の男の子が、「図書館の来客数の目標が何人で、あと何人なので図書館に来てください」という呼びかけをしていました。図書館に来ることをまず呼びかけているんだな、と感じました。図書館の空気に触れるとか、そういった放送が耳に入ってくるとか、本当に小さな手ですが、まずそういったことを積み重ねてとにかく声をかけ続けることを、皆でしていかなければならないと強く感じています。

ぜひ諦めず、根気強く行っていきたいと思います。学校は小中学校地続きですので、終わるまでの間にそういったメッセージを送り続けることが大事なことだと感じます。

家庭にも協力を求めて、メッセージを発信していくことが、全市的な静岡市の子どものたちの読書につながると感じました。

(小南会長)

ありがとうございます。スマホやタブレットを子ども一人一人全員持つことができる時代で、ご指摘のとおり読書はますます重要になっていくと思いますので、ここで踏みとどまら

なければと思っております。

ネットを通じて得られる情報は手軽に手に入りはしますが、一方で、本は作るのも手間がかかっていますし、読むのも少し手間をかけなければならない。

ただその手間をかけて得られたものと、ネットで手軽に得られたものの違いを、やはり大人になるまでに自覚することが非常に大事だと思います。

次に、数値目標について中央図書館と教育センターから説明をお願いします。

(中央図書館 中村)

資料1の「第4次計画の数値目標実績一覧」をご覧ください。

1番「図書館の児童図書の年間貸し出し冊数」ですが、11月末12月1日時点では、13.5冊になっておりますが、3月末の推計値は20.9冊ということで、少しずつ目標に近づいています。

2番の「13歳以上18歳以下の子どもたちの貸出冊数」ですが、現状で2.1冊、3月末までに、2.9冊まで延びる可能性があります。やはり年間で3冊を切ることは課題を感じています。

3番「図書館の児童図書の蔵書冊数」については、8.9冊ということで、新しい本も購入するのですが、それと同時に、古くて手に取られなくなったような本が除籍されていく関係で、相殺されて、8.9冊ぐらいになろうかなと思っています。

それから、5番の「1ヶ月に全く本を読まない生徒」の高校生の数は52%となっております。目標値50%ですので、もうひと頑張り、清委員がおっしゃったとおり、少しずつ進んでいきたいと思っています。

こちらの数字は、7月のときには発表することができませんでした。今回アンケート調査をしまして52%という数字になっております。

ちなみに、1ヶ月に1冊読んだ子は24%、2冊が10%、3冊が3%で4冊以上という子が1割といった調査結果になっております。

(教育センター 石上)

4番「朝読書、読み聞かせ等、全校一斉の読書活動を実施している学校数の割合」は小学校100%、中学校で95.2%、小中学校で100%でした。中学校で2.1ポイント、昨年度より

も下がりました。考えられる要因として、子どもたちの放課後の時間の確保のため、各校教育課程の見直しが進んでいるところが増えています。それに伴って、朝読書などの時間が削減されている学校が増えてきていることが挙げられるのではないかと考えました。

5番「1か月にまったく本を読まない児童・生徒の割合」は、小学校が5.5%、中学校が11%でした。令和6年10月に、1ヶ月本を読まなかった児童生徒の人数を調査しました。小学校中学校ともに不読率が上昇しています。ただ、調査の結果を見ていくと、全体の不読が少しずつ上がっているのではなくて、不読率0%の報告をしている学校も多くあることがわかりました。ここに関しては、学校による差がかなり大きく出ています。

今後不読率が低かった学校については、引き続き読書活動の充実をお願いし、そうでなかった学校については、子どもたちの中に本がある環境作りから始めてもらえるよう支援していきたいと考えております。

6番「読書週間や「子ども読書の日」等読書啓発イベント等に取り組んだ学校数の割合」ですが、小学校で100%、中学校で94.6%、小中学校で100%でした。読書週間等のイベントについては、各校で例年の取組として位置づけられていることが多く、決まった時期に図書館でイベントを行うことが少しずつ定着してきているように感じております。

7番「学校図書館の蔵書の中に、点字図書、デージー図書、外国語の書籍など子どもの多様な特性に応じた書籍を扱っている学校数の割合」は、小学校で87.7%、中学校が83.3%でした。

こちら両方ともかなり上昇しております。要因として、昨年度の学校司書の小中一貫グループ校研修会の中で、市立図書館の司書さんたちに来ていただいて、バリアフリー図書や多言語図書についてお話ししていただいたことが大きいと感じております。

実際にどのような本があるのかを持ってきていただいて、学校司書が手に触れて中を見ることができたので、自校の図書館に必要な資料をすぐに購入することができました。

また、教育センターで実施している初任者研修会の中でも、学校図書館の活用についての講義をする機会がありました。そのときに初任者の先生方にバリアフリー図書や多言語図書について説明し、実物を見て触ってもらう機会を作りました。

(小南会長)

ありがとうございました。それでは今の説明について、ご質問等いただけますでしょうか。

(向山副会長)

1, 2 番のデータについて、例えば 2 番の場合、おそらく 13 から 18 歳の貸出数を、その人口で割ってこの数が出ているということですよね。

そうすると、例えば、100 人が 1 冊ずつ借りても、50 人が 2 冊ずつ借りても数字は同じですよ。その差がわかるようなデータが望ましいと感じました。

どちらかというと、100 人が 1 冊借りる方が望ましいと思うので、どのようにデータをとるか難しいかもしれないのですが、それがあると、どこにモーションをかけたら良いのかがわかりやすくなると思いました。

それから、同じく 1 番と 2 番の数字について、4 番から下のところでは小中高とわかれているので、少なくともこの 2 番ぐらひは、中高ぐらひのグラデーションをつけてもいいのかなと思います。

あともう一つは、小学生のところも、それぞれの学年で分けるのは大変なので、低学年中学年高学年で分けると、どこでガクッと減っているのか掴めると思います。

それによって、何をどうアプローチしたらいいのかがわかると思います。

それから、前の話に戻ってしまいますが、皆さん現場のお子さんの表情が見られて羨ましいと思うので、読み聞かせの様子を動画にしてこの会議で流していただけると、例えばその乳幼児と小学校と中学校、高校の場合で、雰囲気はかなり違うと思うので、そのようなものを見せていただくと、より活発な意見が出たりするのかな、と思いました。

(小南会長)

ありがとうございました。

数値目標自体は良いと思いますが、もう少しデータを詳しく教えていただきたいと私も思っております。

私も学生に平均的な値はそのデータのごく一部の姿しか表していないという話を出すのですが、あまり専門的に細かな数字を求めるわけではありませんが、今ご指摘いただいたぐらひの内容をお示しいただくと、皆さんの参考になると思います。

(教育局次長)

実はこの会議の前に資料を見せていただいた中で、4 次計画の中で目標数値となっているデータの形は変えられないので、仕方がないところはありますが、やはり、皆さんに検討していただくので、検証(実績)のデータは、もう少し詳細な部分を出していただければと思っています。

前回の会議でも、皆さんの、ああしたらいい、こうしたらいいというご意見の中で、結果的に、こども園で何を求められているのか、学校で何を求められているのか、逆に読み聞かせをしたい、やりたい団体の皆さんが何を求めているのかというところをふまえて、目的をもってデータを取れるかというところが、大切だと思っております。

確かに取れるデータと取れないデータはありますが、その中で使えるようなデータにつきましては、教育センターや関係各課の方にもご協力をいただいて、図書館との話をしながら、できれば次回の会議等で、出せればありがたいと思っております。

(小南会長)

ありがとうございました。

それでは他に何かこの数値目標について、ご意見等ありますか。
よろしければ、次の議題に入る前に、5分程休憩をいれます。

(休憩)

(小南会長)

それでは時間になりましたので再開します。議題2「令和7年度取組について」事務局の方から説明をお願いします。

(中央図書館 中村)

すでに議題1でそちらに踏み込んだご意見もたくさん頂戴していますが、13歳から18歳のいわゆるYA世代の読書活動がやはり停滞していると思われます。

図書館でイベントも実施しておりますが、なかなかYAの世代に刺さっていないと感じており、これが先ほど清委員がおっしゃったように、スマホ、SNSの影響なのか、時間がいいのか等分析を、データをもとに進めなくてはいけないところだと思っております。

来年度に向けて図書館でもYAサービスとして、何かイベントをする前に、まず図書委員会等に司書が行って、彼らの意見や考えを聞く機会を設けたり、学校司書さんにお話を聞きに行く機会を設けたりと検討しておりますが、そういった点について何か、アイデア等々、委員の皆さんのご意見頂戴できたらと思います。よろしくお願いします。

(清委員)

本を読むことや絵本に関わるのが好きではない大人になると、仕事が忙しくなるにつれ、

読書量が減っていき、手に取る本も文芸書ではなく仕事に関する本など実用書が多くなってしまっていると思っていました。読書や絵本に関わろうとしても今では本屋が少なくなってしまう、本当に限られた存在になっているということが、今の世の中の課題だと思っています。

ですので、今お話があったように、直接 YA 世代に調査するのも良いと思います。

子どもたちが本から離れていると、漠然と理解しているところを、もう一步踏み込むのであれば、抽出でもいいので、どういう実態か調査することで、意外とそういう結果ではなかったり、意外と本に触れていたりするのかもしれない。

必要でしたら、私の学校を対象にさせていただいてもかまいませんので、全校調査ではないにしても、聞き取りや実態を見に来ていただくのも一つの手かなと思います。

ただ、今この実績一覧の数字を見ると、ほとんど令和 12 年度達成目標にしている数値に近くなっていますが、手を打たなければ、徐々に減っていくのは、時代の流れを考えると仕方がないと思います。

(中央図書館 中村)

教育総務課さんや清水桜ヶ丘高校さんの方と協力しながら、子どもたちが実際に今どういう考えを持っているのか把握して、取組に活かしていきたいと思います。

(清委員)

前回の会議の際に、自分の中学の実態を知るために、国語担当の先生に頼んで、アンケートをとりました。

- ・本を読むことが好きですか
- ・4月から3ヶ月の間にどれくらい本を読みましたか
- ・1週間どれくらい本を読んでいますか
- ・1か月にどれくらい本を読んでいますか
- ・どこで本を読みますか

という5項目でした。「本を読むことは好きですか」は、「好きだ」が25%、「好きではない」が25%でした。「3ヶ月の間にどれくらい本を読みましたか」は「ほとんど読まない」が約45%です。「毎日読んでいる」が5.5%、「2、3日に一度」が27.8%でした。

1週間に読書をした時間は、「0時間」21%、「1時間30分以上」が8.9%、「30分未満」が40%。こちらは朝読書が原因だと思います。

1か月に読んだ本の冊数は、「0冊」が22%、「10冊以上」が11.1%。「1、2冊」が一

番多く、38.9%でした。

「どこの本をよく読みますか」は「学校図書館」が43.4%、「公立図書館」が6.1%、「家にある本」が44.4%、「友達の本を借りて」が1%でした。

こちらは、顔のわかる子どもたちなので、膨大な数の平均を出すとまた印象が違うとは思いますが、こういった実態だとわかると、何か手を打たなければという気持ちを押すと思います。

具体的な実践に繋がらなければ意味がないので、ほかにも色々なアイデアが必要だとは思っています。

(小南会長)

大変必要な情報をいただいたのかなと思いますので、ぜひ参考にさせていただきたいと思います。今のような情報を得るのは非常に大切だと思います。

他に何かアドバイスいただけることはありますでしょうか。

(甲斐委員)

娘たちが中学校の時に、図書館が好きだったので、図書館の司書の先生と仲良くなって、司書の先生がどんな本が読みたいか聞いてくださって、本をリクエストしたら、全部ではなくても新しく、購入して下さったことがありました。

それがきっかけで、図書館によく通うようになり、高校生でも司書の先生が本のリクエストを聞いてくださって、図書館に行くのが楽しみになっていました。そういう長女を見て、次女も同じようによく借りて読んでいました。

その本は文芸書ではなく、入っていた運動部の関係する雑誌のようなものを入れてくださったりしていましたので、生徒の意見を聞いていただいて、色々なジャンルの本を入れていただいて、友達同士で広まっていけばと思いました。

(教育センター 学校図書館支援室長 新井)

学校でも、学校司書や司書教諭が協力して、Chromebook 等で子どもたちにどんな本を読みたいかのアンケートをとって、それを参考に購入することもあります。

それから先ほど、学校の話を知りたいという中央図書館の話がありましたが、昨年小中一貫の学校司書のグループで、市立図書館の司書が全部のグループ校を回ってくれて、バリアフリー図書や団体貸出しを紹介してくださり、学校司書がとても勉強になって助かったという話がありました。

ぜひ子どもたちのことをよく見ている学校司書に、話を聞いていただける機会を持っていたらありがたいと思います。

(中央図書館 中村)

ありがとうございます。学校司書さんと市立図書館の司書が連携をして、様々な情報交換をすることが大事だと思います。

来年度に関しては、小中学校のグループ校に合わせて図書館の方の分担も少し変更をしましたので、グループ校に必ず近隣の図書館司書が回ることができるような形をとっていきたいと思っています。

(小南会長)

すべての学校との連携は難しいと思いますので、地道に、そういった事例を作っていく等、色々な試みをしていただければと思います。

他には何かよろしいですか。

他にないようでしたら、本日の協議はこれで終了します。議事進行にご協力いただきありがとうございました。事務局の方からお願いします。

4 その他

(中央図書館 関寄)

4のその他ですが、何かご連絡のある方はいらっしゃいますか。

(連絡なし)

委員の皆様、ありがとうございました。

本日の会議録を事務局で作成した後に、2名の委員の署名が必要です。向山副会長と、小林委員にお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

会議録については、市のホームページに掲載されます。

以上をもちまして、令和6年度 第2回静岡市子ども読書活動推進会議を閉会といたします。それでは、本日はありがとうございました。

5 閉会

本会議録は、令和7年1月28日開催の令和6年度第2回静岡市子ども読書活動推進会議の議事内容と同一であることを証する。

会議録署名人

会議録署名人